

## デジタルドリルを活用した取組概要

1. 毎日の給食配膳待ち時間に、指定したユニットに取り組む。  
⇒デジタルドリル活用の習慣化
2. 各単元終了後、家庭学習としてテスト設定された課題に取り組む。  
⇒学習内容の定着及び指導者側による学習状況の把握
3. 空き時間（課題が早く終わったり、自習したり等）の取り組みの選択肢の1つとして、自主的な活用を促す。  
⇒児童自身が学びの自己選択をして取り組むことができる機会の保証
4. 自主学習の課題設定の際に、ダッシュボード機能の確認を促す。  
⇒現状把握・自己分析の重要性の認識を促す。

## 成果・効果

- 各教科の単元テストにおける目標値と平均値との比較（知識・技能）  
算数 +4ポイント 理科 +5.05ポイント 社会 +3.95ポイント
- 児童の学習時間の増加⇒日頃の空き時間や家庭での時間、長期休み等に手軽にドリル学習に取り組むことができる。
- 「すららドリルでやった！」や「前回より早くユニットできました。」など、デジタルドリルを活用したことによる成果を発言する児童が増加。  
⇒児童自身が自己調整しながら復習や予習に取り組むことができる。

## 活用事例①

データ（取り組んだ教科の割合・ユニット数）



「ダッシュボード機能」を活用して、現状の把握及び自己の課題設定に取り組む様子。

取り組みが足りていない教科のユニットに取り組んだり、ユニット数を競い合ったりするなどの姿が見られた。

## 活用事例②

データ（過去に間違った問題・正答率）



週に1度（全10回）「パワーアップタイム」と題して、自主学習に取り組むことができる機会を設定した。自分で課題を立て計画し、実践して振り返り次につなげる過程で学びを深めていた。

写真は、すららドリルで間違えた問題をペアでホワイトボードに書き合い、互いに出し合って学びを深めている場面。